

3 爬虫類

3 爬虫類

県内では9科16種の爬虫類が生息している(外来種1科1種を含む)。今回、選定されたのは5種で、絶滅危惧Ⅱ類が1種、準絶滅危惧が4種である。このうち、ニホンスッポンは要注意種から準絶滅危惧へ、シロマダラは選外とした。残りの4種は変更しなかった。

カメ目ではニホンイシガメとニホンスッポンを準絶滅危惧とした。ニホンイシガメは県北部や河川の中・上流域などでは確認できるが、河川の下流域や都市近郊での確認例が少なくなってきた。以前は沿岸部でクサガメとニホンイシガメの甲羅干しを見かけたものだが、近年はクサガメとミシシippアカミミガメの甲羅干しが多くなったように思う。カメ類は水場付近の土手や少し離れた畑などの乾燥した場所で産卵することが多く、河川改修によるコンクリート護岸はニホンイシガメやニホンスッポンの産卵場所への移動を妨げるだけでなく、日当たりの良い砂地の法面である産卵環境そのものを消失させている。また、クサガメとニホンイシガメの交雑個体は在来個体群に深刻な影響を与えかねない。一方でニホンイシガメの成体や幼体をペット業者に販売するマニアも確認されるなど、野生カメに対する社会的環境は厳しくなってきた。幼体のペット化が常態化する中で、ミシシippアカミミガメの成体が放棄され、また、キバラガメやカブトニオイガメが散発的に報告されていることから、外来種(国外移入種)についても注意する必要がある。

トカゲ亜目ではタワヤモリを絶滅危惧Ⅱ類に、ニホントカゲを準絶滅危惧とした。タワヤモリは瀬戸内海沿岸の自然崖や低山地の林内にある露岩地などに生息し、ニホンヤモリは民家周辺に生息している。しかし、近年、ニホンヤモリがタワヤモリの生息域へ侵入し、県内外でもタワヤモリからニホンヤモリへ置き換わった事例もあることから、両種が生息する地域周辺ではタワヤモリが生息している環境の保全が必要である。ニホントカゲは石垣や自然崖のコンクリート化に伴い、生息環境が著しく減少し、それに伴って個体数も減少している。

ヘビ亜目ではタカチホヘビを準絶滅危惧とし、シロマダラは選外とした。タカチホヘビは見つけにくいヘビであるが、適度な湿度と通気性の保たれたガレ場やスギの植林地にあるガレ場などで目撃されることが多く、そうした環境を探せば生息ポイントは増えると思われる。シロマダラは夜行性で確認例の多くないヘビであったが、今回の調査で生息地や確認個体も増え、県内に広く生息していると判断し、選外とした。

爬虫類は両生類に比べて生息環境は明確でなく、偶然に目撃することが多いことから、希少種の生息情報は多くない。今後は普通種を含めた調査が望まれる。特に、西日本豪雨の被災地では生息情報の集積が必要である。

なお、学名などは日本爬虫両棲類学会 Web サイトの日本産爬虫両生類標準和名リスト(2020年10月14日版)に従った。

(爬虫類・両生類調査部会)

爬虫類選定種

- | | |
|-------------|-----------|
| 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) | 3 タカチホヘビ |
| 1 タワヤモリ | 4 ニホンスッポン |
| 準絶滅危惧 (NT) | |
| 1 ニホンイシガメ | |
| 2 ニホントカゲ | |

タワヤモリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②, VU-④

Gekko tawaensis Okada, 1956

有鱗目トカゲ亜目 ヤモリ科

環境省: NT

広島県 2011: VU

広島県 2003: VU

概要	近畿, 中国, 四国, 九州の瀬戸内海島嶼部および瀬戸内海沿岸部を中心とした特異な分布をしている日本固有種。乾燥した自然海岸の岩場や低山の露頭, 神社などの人工物に生息し, その多くは自然林に隣接している。頭胴長は成体で約 50~70 mm で, 尾を自切することもある。ニホンヤモリによく似ているが, 体表面に大型鱗がみられず一様な大きさに揃っていることと, 側肛疣が 1 対しかないことで区別できる。6~8 月に岩の隙間などに 1 回に 1 対 (2 個) 産卵する。条件がよいと同じ場所に複数回産卵され, 卵塚が築かれることもある。岩や樹皮, 人工物の隙間などで越冬し, 集団で越冬していることもある。昆虫などを食べる動物食である。
生息・生育状況	自然海崖がほとんど失われているような状況で, 災害対策としてますます本種の生息に適した隙間を有した崖や岩場が消失しているため, 個体数が減少の一途を辿っている。また, 以前よりニホンヤモリとのニッチの競合や交雑が脅威であったが, 近年, それに加えて島嶼部レジャー施設付近で植栽樹木由来と思われるサツマゴキブリの移入により, 新たなニッチ競合種が生まれてしまい, 生息環境が減少・悪化している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	コンクリート製護岸や法面の増加にともなう産卵, 越冬場所の消失, 減少が著しいため, 生息地を改変する際には, 一部自然護岸を残したり, ささまざまな幅の隙間をつくる, あるいは隙間のある構造物を用いるなどの配慮が必要。また, サツマゴキブリとのニッチの競合や, ニホンヤモリとのニッチの競合と交雑の恐れがあるため, 他地域から持ち込むなどの不用意な植栽は注意する。
特記事項	—
産地情報	呉市 (倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 川尻), 尾道市 (因島), 大竹市, 東広島市 (高屋, 黒瀬), 廿日市市 (宮島), 府中町, 熊野町, 坂町

Toda, M., S. Okada, T. Hikida and H. Ota 2006. Extensive Natural Hybridization Between Two Geckos, *Gekko tawaensis* and *Gecko japonicus* (Reptilia: Squamata), Throughout Their Broad Sympatric Area. *Biochemical Genetics*, 44(1/2): 1-17.

広島市環境局環境企画課 2000. 広島市の生物—まもりたい生命の営み—. 307 pp. 広島市.

(原 竜也)

ニホンイシガメ 準絶滅危惧(NT) NT-b, NT-d

Mauremys japonica (Temminck & Schlegel, 1838)

カメ目 イシガメ科

環境省: NT

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	本州, 四国, 九州および佐渡, 隠岐, 宍岐, 対馬, 五島列島などに分布する日本固有種。甲長は 100~200 mm ほどで, 雌のほうが大きい。背甲は黄褐色で腹甲は黒い。背甲の後端はギザギザになっており, 若い個体ではより顕著である。クサガメとの交雑は古くから知られており, “うんきゅう” と呼ばれ, 双方の特徴を併せ持った個体がまれにみられる。6~8 月に生活水域に近いやや乾燥した地面に 10 cm 程度の穴を掘って 4~10 個程度産卵する。魚類や甲殻類, 水生昆虫などを食べるが, 植物の葉や野菜なども食べる雑食である。古くからペットとしての需要があり, 「ぜにがめ」と称して売られていたがクサガメの幼体であることも多い。
生息・生育状況	かつては河川を中心に, 県内の淡水域に広く分布していたと思われるが, 近年の観察例の多くは上・中流域で, 河川下流域やため池, 水田などでは, そのほとんどがクサガメやミシシippアカミミガメに置き換わっている可能性がある。また, 河川の岸辺やため池の堤体などの護岸整備や法面整備により, 産卵適地が減少傾向にある。さらに, 災害対策としてのため池の埋め立てにより, 生息環境が減少・悪化している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息地においては, 生活水域, 越冬環境, 産卵場所などさまざまな環境が連続して残されている必要がある。自力で這い上がれない高さのコンクリート側溝隔壁や, 移動中の路上での轢死など, 生活水域から産卵場所などへの移動障害を避ける配慮が必要。また, ミシシippアカミミガメとのニッチ競合や, クサガメ, ハナガメとの交雑の恐れがあることと, 国内移入種問題があるため, カメ類の飼育個体の放逐は厳に慎む必要がある。
特記事項	—
産地情報	広島市 (中区, 東区, 西区, 安佐南区, 安佐北区), 呉市 (呉), 竹原市, 三原市 (三原), 三次市 (三次, 甲奴, 君田, 作木, 吉舎, 三良坂, 三和), 庄原市 (庄原, 総領, 口和), 東広島市 (西条, 八本松, 志和, 高屋, 黒瀬, 福富, 河内), 廿日市市 (大野, 佐伯, 吉和, 宮島), 安芸高田市 (美土里, 向原), 府中町, 海田町, 熊野町, 安芸太田町 (加計, 戸河内), 北広島町 (芸北, 大朝, 千代田, 豊平), 世羅町 (甲山)

環境省 2016. 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律施行令の一部を改正する政令.

丸野内淳介 2001. 広島大学構内で確認されたニホンイシガメ (*Mauremys japonica*) とクサガメ (*Chinemys reevesii*) の雑種. 比婆科学, 200: 47.

(原 竜也)

ニホントカゲ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Plestiodon japonicus (Peters, 1864)

有鱗目トカゲ亜目 トカゲ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	本州西部から四国・九州にかけての西日本に分布している。近年、分類が変更され、東日本とロシア沿海州の集団は別種ヒガシニホントカゲとなった。ずんぐりとした体形と滑らかな鱗が特徴である。幼体は、黒い体に5本の黄色い線がはいり、尾はコバルトブルーでよく目立つ。成長とともに尾の青色は消え、体色は褐色になっていくが、雌では青い尾を残すものが多い。尾は、押さえただけで簡単に切れ、激しく動くため敵の注意が尾に注がれ、その隙に逃げる。切れた尾は再生する。ミミズやクモ、ワラジムシ、コオロギなどを餌とする。昼行性で日当たりのよい石垣などで日光浴をする。警戒心が強く、驚くとすぐに隠れる。
生息・生育状況	庭先や畑、道路わきの斜面、林縁部などに生息している。人家の軒下や石垣でも見られることが多く、梅雨明け頃からふ化した幼体なども見られるようになる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	産卵や冬眠、隠れ家として、石垣の隙間や巣穴などが必要である。自然災害による法面工事や環境整備によるコンクリート化がすすむと、それらの環境が消失してしまう。
特記事項	—
産地情報	広島市（中区、南区、安佐北区、佐伯区）、呉市（呉、下蒲刈、蒲刈、安浦）、竹原市、三原市（三原、大和、本郷、久井）、三次市（君田、三良坂、三和）、庄原市（西城、高野、比和）、大竹市、東広島市（西条、八本松、志和、高屋、福富）、廿日市市（廿日市、佐伯、宮島）、江田島市（江田島、能美、沖美、大柿）、府中町、熊野町、安芸太田町（加計、筒賀）、北広島町（芸北、大朝、千代田、豊平）

宇都宮妙子・宇都宮泰明・大川博志・岡田 純・内藤順一 2001. 広島県の両生・爬虫類. p. 130-131. 中国新聞社, 広島.

国立環境研究所侵入生物データベース ニホントカゲ(<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/30290.html>), 2020年9月26日. (平山良太)

タカチホヘビ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

Achalinus spinalis Peters, 1869

有鱗目ヘビ亜目 タカチホヘビ科

環境省: なし

広島県 2011: NT

広島県 2003: NT

概要	全長約300～600mm。頭は比較的小さく、眼も小さい。背面の鱗はビーズ玉のように一枚一枚が盛り上がり、鱗は互いに重ならない。鱗には真珠光沢があり、光線の関係で虹色に見える。背面中央には1本の黒条があり腹面は黄色味の強い褐色で、尾の部分には黒斑を散布する。尾下板は単一で対をなさない点か他のヘビと大きく異なる。背面の色は暗紫褐色であるが成長につれて黄色味が強くなり、十分成長した個体では腹部と同じ様な色になる。他に紛らわしいヘビはいない。行動は他のヘビのように敏捷でなく、ゆっくりと這うことが多い。
生息・生育状況	生息状況が把握されておらず、工事で初めて生息が確認されることが多いが、そのときにはすでに遅く、知られないことにより、しだいに減少していく可能性がある。環境整備、防災工事などで生息場所が減少し生息条件が悪化すると思われる。とくに2018年の豪雨被害の後、本種の生息場所がコンクリートで固められたりしている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	移動性が低いため、斜面の破壊やコンクリート化、ブロック化の工事により、生息個体が死滅する。また、生息場所が消失する。また、生息環境が、防災工事などで破壊、消失してしまう可能性が高い。生息状況の把握が肝要である。
特記事項	環境に対する選択性が強く、局地的に産する傾向がある。ミミズなどを餌とし、やや湿り気のある通気性のよい斜面の土の中や腐植質の中に生息する。
産地情報	広島市（安佐北区）、呉市（呉）、三次市（作木）、庄原市（西城、東城、高野）、廿日市市（吉和）、安芸太田町（戸河内）、北広島町（芸北）、世羅町（甲山）、神石高原町（神石、豊松）

比婆科学教育振興会編 1996. 広島県の両生・爬虫類. p. 132-133. 中国新聞社, 広島.

(大川博志)

ニホンスッポン 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b, NT-c

Pelodiscus sinensis (Wiegmann, 1835)

カメ目 スッポン科

環境省: DD

広島県 2011: AN

広島県 2003: DD

概要	<p>本州・四国・九州や南西諸島に分布し、国外では朝鮮半島・中国・台湾・インドシナ北部に分布している。甲羅長は70～380 mm、灰緑色で、鱗板がなく、柔らかい革のような質感をしている。鼻孔は吻端まで延び、咬みつくので注意が必要である。甲羅干しのために中州や川縁に上陸し、水田などにはいつて餌を採る。おもな生活場所は河川である。本県では、比較的暖かい沿岸部の河川中流域やため池に生息しており、用水路などにも生息する。繁殖期は5～8月、日当たりのよい川土手の法面に穴を掘って産卵する。魚類・甲殻類・カワニナなどを餌としている肉食性で、約5年で成熟する。冬季は川底の砂泥底に潜って越冬し、北部の寒い地域では冬眠する。</p>
生息・生育状況	<p>本種は食用で減少したのか、生息環境の悪化で減少したのか、よくわからなかったが、約30年の調査により、個体数は少ないものの、県内に広く生息していることがわかり、「情報不足」から「準絶滅危惧」へ移行させた。河川改修や護岸工事により移動できなくなったり、産卵場所も減少し、個体数が減少してきたと考えられる。また、国外外来種のミシシippアカミミガメと繁殖環境や餌が競合するため、今後も減少が懸念される。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>産卵場所は日当たりのよい川縁の法面であるが、コンクリート護岸が増加し、移動できなくなったり、産卵場所が減少したため、個体数が減少してきたと考えられる。また、国外外来種のミシシippアカミミガメと繁殖環境や餌が競合するため、今後も減少が懸念される。</p>
特記事項	<p>以前は子どもたちが銭亀(イシガメの幼体)やみどり亀(ミシシippアカミミガメの幼体)をペットとして飼っていたが、近年、ニホンスッポンやニホンイシガメの成体もペットとして需要があり、業者やマニアの乱獲が確認されている。</p>
産地情報	<p>広島市(中区, 東区, 安佐南区, 安佐北区, 佐伯区), 三原市(三原, 大和, 本郷, 久井), 尾道市(御調), 福山市(福山, 新市), 府中市(府中, 上下), 三次市(三次, 甲奴, 君田, 布野, 作木, 吉舎, 三良坂, 三和), 庄原市(庄原, 総領, 西城, 東城, 口和), 東広島市(西条, 志和, 黒瀬), 廿日市市(佐伯), 安芸高田市(吉田, 八千代, 美土里, 高宮, 甲田, 向原), 府中町, 熊野町, 安芸太田町(加計, 筒賀, 戸河内), 北広島町(大朝, 千代田, 豊平), 世羅町(世羅, 甲山, 世羅西)</p>

宇都宮妙子・宇都宮泰明・大川博志・岡田 純・内藤順一 1996. 広島県の両生・爬虫類. (比婆科学教育振興会編), p. 120-121. 中国新聞社, 広島.

内藤順一 2019. 広島県動物誌資料(49). 881. 大毛寺川で大きなニホンスッポンを捕獲. 比婆科学, 267: 9-18. 3 pls.

(内藤順一)